



▲泉龍寺(曹洞宗)

参加者は、布製の丸い形をした「坐蒲(ざぶ)」を使ってお尻を少し高くし、正しい姿勢で座る方法を学びました。また、足や膝に不安のある方は、無理に足を組まず、椅子に座って背筋を伸ばす方法でも座禅に取り組めることが紹介され、誰もが安心して体験することができました。

本来の座禅は壁に向かって行いますが、今回は参加者全員が外向きに座って、約10分間の座禅を2回体験しました。警策(きょうさく)で肩を打つことは行わない予定でしたが、「せつかくなの二度経験してみたい」と希望した参加者がおり、特別に肩を打っていただく場面もありました。

住職は通常よりかなり力を加減されたようですが、それでも十分な刺激があったようです。

参加者からは「何も考えないようにしても、仕事や日常のことなどが次々と頭に浮かび、思った以上に難しかった」との感想も聞かれました。

静かな本堂で心を落ち着かせ、自分自身と向き合う貴重な時間となりました。

16人が座禅体験に挑戦

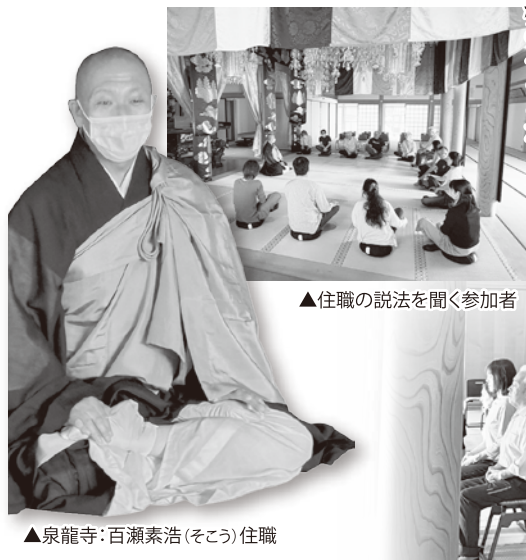
小屋公民館寺子屋塾開催



▲初めての警策(きょうさく)体験

5月31日午前10時から、小屋南の大淵山泉龍寺(曹洞宗)本堂において、寺子屋塾「座禅体験会」が開催され、16人が参加しました。

はじめに、泉龍寺の百瀬素浩(そこう)住職からは座禅についてのお話があり、永平寺での修行で10kgも体重が減ったというエピソードを交えながら、座禅の心構えや作法を分かりやすくご説明いただきました。



▲泉龍寺:百瀬素浩(そこう)住職



▲静かな本堂で座禅に取り組む参加者の皆さん



令和8年7月1日 現在	
総世帯数	8,457世帯
総人口	17,224人
男	8,715人
女	8,509人

芳川地区地域づくりセンター
☎58-2034

芳川出張所
☎58-2034

芳川公民館
☎58-2034

芳川福祉ひろば
☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、芳川出張所、芳川公民館へのご連絡は同じ番号となります。

芳川みなみ福祉ひろば
☎86-1055



▲一般住宅や事務所でも食器棚が倒れたり、商店では陳列商品が落ちたりビン等が割れたりの被害が報告されました。



当日の地域づくり学習会の詳しくはLINE公式アカウント「芳川かわら版」で配信!!
☞こちらをチェック!



▲芳川地区でも多くの壁や塀、屋根瓦等に被害がでました

信州大学出前講座「地質学から見た信州の地震と関連災害」活断層が作った生活の場で考える」

6月28日に信州大学名誉教授・特任教授の大塚勉さんを招き、芳川地域づくり学習会が開催されました。学習会には、地域の消防団員など約90人の参加がありました。

講座のポイント4点。

- ①長野県中部地震(2011年6月30日)の震央(震源の真上)が芳川地区寄り。建物の被害は、震央の北・東の地盤が弱い地域で大きかった。
- ②東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)以降、地震が増加。
- ③活断層は未知のものもあり、どこにもある。
- ④南海トラフ地震と、誘発される内陸地震に注意。

地震についての学びと、日頃の備えについて考えるとても良い機会となりました。

地域づくり学習会

信州大学出前講座「地質学から見た信州の地震と関連災害」活断層が作った生活の場で考える」

6月28日に信州大学名誉教授・特任教授の大塚勉さんを招き、芳川地域づくり学習会が開催されました。学習会には、地域の消防団員など約90人の参加がありました。

講座のポイント4点。

- ①長野県中部地震(2011年6月30日)の震央(震源の真上)が芳川地区寄り。建物の被害は、震央の北・東の地盤が弱い地域で大きかった。
- ②東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)以降、地震が増加。
- ③活断層は未知のものもあり、どこにもある。
- ④南海トラフ地震と、誘発される内陸地震に注意。

地震についての学びと、日頃の備えについて考えるとても良い機会となりました。



▲信州大学 大塚名誉教授



▲ひとつひとつ真剣に
子どもたちの作品を観賞

◀「あったあった！」
お孫さんやお子さんの
作品探しも楽しく！

公民館の廊下が明るく
なるとともに、見た人を元
気にするとともに良い空間
になりました。

芳川小学校・芳川公民館共同企画 芳川っ子『わたしのおひさま展』



色とりどりの
作品で、公民館が
パッと明るく
なったよ!!

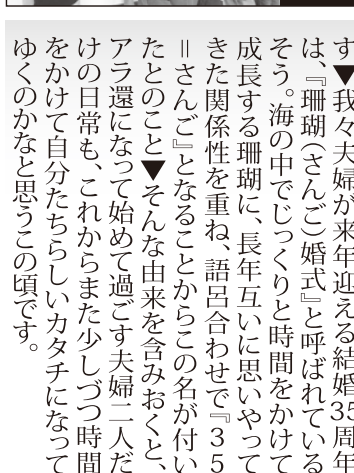
絵がいっぱい!! などの
感想を寄せてい
ただきました。

絵を見た方々からは「個
性的なおひさまがいっぱい
とても素敵でした! 思わ
ず笑顔になりました!」「
カラフルな色使いがとても
上手です。心がホッとし
ます。また絵を描いて展
示して欲しいです!」「元気が
ました! 笑顔になる

6月10日〜6月30日ま
で、芳川小学校1年生が図
工の授業で描いた「おひさ
まの絵」を芳川公民館の1
階と2階の廊下に展示し
ました。



芳川環境衛生協議会の 視察研修会が7月1日に 行われ、クリーンセンター からリサイクルセンター を見学してきました。普 段見ることの出来ない箇 所等を見学でき、実りあ る時間でした。



撮影:2026年4月19日

中で開催された。現在は篠ノ井
線のすぐ脇にあるが、以前は線
路との間に田んぼが1枚ある。
古い写真は平田公民館の駐車
場辺りにあった場所から、現在
地に移転したようだ。



撮影:1930年代頃

現在、は
毎年4月中旬に開催され
ている法要は、今年も厳粛の

現在、は

明治初年の廃仏毀釈で廃
寺になった、平田念稱寺跡の
「南無阿弥陀仏供養塚」の法
要。奥には篠ノ井線が見え
る。僧職は村井町常照寺の
吉水説聞和尚である。

芳川の今昔物語 念稱寺供養塚法要

村田 正幸

第48話

たちばなし

我が家は、一人娘が県外の大学
に進学するまで、義父母と5人
で食卓を囲んでいた完全同居型
の2世帯住宅。個室、二間続きの
座敷、納戸や屋外物置を備えて
建てました。収納先を多くした
のは「いつか使う、しまっておく
う」そんな親世代の思いを汲ん
での事でした▼親戚づきあいの
形も変化した平成の時代、座敷に人が集
まることは無く、いつしか義母の趣味部
屋に。またおばあちゃん子だった娘は、宿
題はいつもリビング、寝起きも義母の部
屋でという生活が長く、自室を使つたの
は僅か4、5年程度。ワナルームに収まる
家具を揃えて送り出したので、子供部屋
がそのまま私の仕事場として活躍するな
ど当時は想像もしていませんでした▼そ
してリビングや水回りに隣接していた義
母の部屋は、寄り添いが必要になった後
も使い勝手が良く、晩年の義父の寝室に
もなりました。最期を迎えるまで過ごし
たこの家が、親達にとって居心地の良いも
のだったなら幸いです▼娘も良縁に恵ま
れ、二人を天国に送りたい、『四半世紀
経つても使わなかった、今後も使わない
もの』を片付けながら、娘に同じ思いをさ
せないことを心に留め置き始めた我々夫
婦の終活の一步。まだまだ先は長いです
が、どんどん広くなっていく家を、これか
らどんな風に変えていこうかと思案中で
す▼我々夫婦が来年迎える結婚35周年
は、『珊瑚(さんご)婚式』と呼ばれている
そう。海の中でじつくりと時間をかけて
成長する珊瑚に、長年互いに思いやっ
てきた関係性を重ね、語呂合わせで『35
||さんご』となることからこの名が付い
たとのこと▼そんな由来を含みおくと、
アラ還になって始めて過ごす夫婦二人だ
けの日常も、これからまた少しづつ時間
をかけて自分たちらしいカタチになつて
ゆくのかなと思うこの頃です。